

2018 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
教育学部 子ども発達学科	教授	西崎 有多子
最終学歴	学 位	専門分野
コロンビア大学大学院修士課程修了	MA	英語教育

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

- ①全学共通の英語科目に関しては、英語の習熟度に大きな差がある学生に対して、それぞれのレベルにおいて学生が興味を持ち自ら学ぼうとする気持ちを持って授業に臨み、授業の教材だけでなく今後授業外で出会う英語に対して自らの力で理解していこうとする気持ちと解決していける実力をつけることを目標とする。専門科目へ繋ぐことができるよう、基礎を固める。アクティブラーニングを積極的に取り入れる。
- ②「専門演習Ⅰ・Ⅱ」(3年生ゼミ)においては、真面目で社会に出て信頼を得られる人材を育成するために、礼儀や物事に対して真摯に取り組む姿勢を徹底させる。企画力、指導力、分析力を養い、将来に向けて具体的で着実な実力をつける内容とする。子ども英語・小学校英語について入門的内容を取り上げ、興味を深める指導について実技を行ない考えさせる授業を行なう。
- ③「専門演習Ⅲ・Ⅳ」(4年生ゼミ)においては、社会人となる前の最終学年として、社会に出て信頼を得られる人材を育成するために、礼儀や物事に対して真面目に真摯に取り組む姿勢を徹底する。遅刻や無断欠席などをすることなく、一人ひとりが卒業論文の完成に向けて、資料を収集し、構成を考え、文章を書き、完成させる過程をきちんとこなし、大学教育の最後の仕上げに値する論文を書く。このプロセスは、教員と楽をしたい学生とのある意味で戦いでもあり、お互いに真剣に向き合い、学生は苦し紛れを経験しながら、それまでの自分を超えていくことの意味を理解してほしい。一度到達したら、次はその上に到達できるようになることを、実感としてわかってもらい、成長してほしい。

(計画)

- ①語彙の面では授業には必ず辞書を持参させ、いくつもの意味の中から最適な解釈を選び出す力をつけながら、文法その他の面では、基本的説明を繰り返し取り入れながらスパイラルに授業を進める。学生が今後の専門科目ならびに現場で役立つ英語を学んでいるという自覚が持てる教材を使用し、同時にアクティブラーニングを積極的に取り入れる。
昨年同様、英語での紙芝居やペープサート、絵本の読み聞かせ、絵本理解のアレンジ等実際に人の前で発表をする機会を増やし、力を付ける。
- ②授業のスタイルとして、学生が企画するチャレンジ、最新のニュースや課題を扱うテーマ、英語力を養う英語、の3部構成を基本とする。チャレンジは、総当たりで2名1組となり、将来役に立つ内容で自由に企画、運営する。徐々に簡単な指導案を用意できるように指導する。テーマは、教員または学生から提案されたテーマについて、討論を行い、必要に応じて調査やレポート作成につなげる。英語については、総合的英語力向上を目指す。
英語教材の使用法についても、有名な絵本を取り上げ、読み聞かせだけでなく、アレンジして子どもの理解を深める工夫を実技で行なっていく。学外演習では、親睦をはかり、学内のゼミとは異なる貴重な時間を過ごしたい。

③真面目で信頼される新卒として、社会に受け入れられるよう、礼儀、言葉使い、何事にも意欲的に取り組む、締切を守る、授業に遅刻、欠席等をしない等、学生として規律正しく一生懸命卒業論文等に取り組むゼミとする。学外演習では、親睦をはかり、学内のゼミとは異なる貴重な時間を過ごしたい。

○担当科目（前期・後期）

（前期）英語基礎ⅠC、英語ⅠC、英語Ⅲ、小学校英語、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）英語基礎ⅡC、英語ⅡC、英語Ⅳ、小学校英語教育法、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

○教育方法の実践

「英語基礎ⅠC」「英語ⅠC」「英語基礎ⅡC」「英語ⅡC」においては、今後の専門科目を見据えて、幼稚園・小学校で使用される英語教材を併用しながら、教科書の文章を使ってグループでペーパーサートとして発表するなど、自主的で対話的な授業を行った。「小学校英語」「小学校英語教育法」では、再課程認定を受けた来年度以降のシラバスを前倒しにして採用し、実践力を付けるために教材研究や模擬授業を多く行った。岐阜の小学校における研究発表会等に希望する学生と参加し、実際の授業を観ることで教室での講義や模擬授業の重要性をフィードバックできた。

○作成した教科書・教材

講義内容を学生が自己学習によって整理し振り返るためのプリントを用意、小テストでは、間違っていたところを確認して復習するプリントを作成する等フィードバックのための教材の作成を心掛けた。小学校外国語アクティビティに関する図書は、授業でも取り上げ、使用した。

○自己評価

概ね達成できたが、多忙により授業準備の時間の確保が十分にできなかった。

II 研究活動

○研究課題

小学校英語教育からぶれることなく、更なる研究を続けていく。

○目標・計画

（目標）

新学習指導要領の移行期を迎え、移行期用新教材の分析と活用法、それに伴う指導と研修について最大限の効果を上げるための研究を行なう。新学習指導要領下で教員になる学生たちの指導力向上についても、専門科目の授業改善を行なっていく。

（計画）

学会への参加、研究開発校での研究授業等の観察・参加、最新の資料の入手と分析等より常に変化に対応し、最新の情報に基づいて、研究を行なう。授業においてもそれらから得た情報を還元し、アクティブラーニングを積極的に取り入れる。

○2011年4月から2019年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・西崎有多子・鈴木由季子・久保田香直・加藤拓由・山田幸子・岡井崇・藤田しおり・鷹巣雅英・清水万里子・山下桂世子（以上執筆者）、川村一代編著『1日10分 語彙・表現がしっかり定着！小学校外国語アクティビティ50』明治図書、2019年2月、アクティビティ9・14・21・29・35担当、共著
- ・今津孝次郎・西崎有多子・白井克尚・中島弘道・新實広記・伊藤龍仁・柿原清治・伊藤数馬『教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』地域創造研究叢書 No. 30、唯学書房、2019年2月、113頁の内、第2章担当、共著

- ・小学生のための英語教育研究グループ著『英語好きな子に育つたのしいお話 365』誠文堂新光社、2016年12月、416頁の内7頁（7編）を担当、共著
- ・西崎有多子『国語と英語の連携を意識した授業を考えるー小学校におけることばの教育の相乗効果をめざしてー』三恵社、2016年3月、170頁、単著
- ・西崎有多子・古市久子・金澤延美・加藤拓由・藤重育子『ことばでつなぐ子どもの世界』地域創造研究叢書 No. 25、唯学書房、2016年3月、137頁の内、第6章担当、共編著
- ・古市久子・澤田節子・西崎有多子・荒川紘・山極完治『ならぬことはならぬ 江戸時代後期の教育を中心として』地域創造研究叢書 No. 21(2014年3月発行)、132頁の内第5章担当、唯学書房、共著
- ・西崎有多子他委員『高等教育における英語授業の研究ー学習者の自立性を高めるリメディアル教育ー』（2012年3月）大学英語教育学会・第2次授業学研究特別委員会、共編著
- ・古市久子・澤田節子・西崎有多子・荒川紘・高橋衛『江戸時代の教育を現代に生かす』地域創造研究叢書 No. 16（2012年1月発行）唯学書房、168頁の内、第5章担当、共著

(学術論文)

- ・西崎有多子「小学校教員養成課程における授業実践に必要な英語力の養成ー一次期学習指導要領を踏まえたアクティビティラーニングをとおしてー」『東邦学誌』2018年12月、第47巻、第2号、pp. 119-125、単著
- ・西崎有多子「小学校教員養成課程における「小学校英語教育法」への段階的学びを考えるー苦手意識の克服と指導時の不安軽減をめざしてー」『東邦学誌』 2017年12月、第46巻、第2号 pp. 69-77、単著
- ・西崎有多子「小学校英語を指導する際に押さえておきたいポイントー小学校教員養成課程における限られた条件の下でー」『東邦学誌』2016年12月、第45巻、第2号 pp. 25-36、単著
- ・西崎有多子「ネーミングの工夫からことばへの気付きへと発展させる指導ー小学校におけることばの教育の一案としてー」『東邦学誌』2015年12月、第44巻、第2号 pp. 1-11、単著
- ・西崎有多子「商品のネーミングからことばへの気付きに導く指導ー小学校における国語、英語、外国語を連携させてー」『東邦学誌』2014年6月、第44巻、第1号 pp. 111-122、単著
- ・西崎有多子「新しいことばの創造と受容を通して日本語と外国語を考える指導ー小学校国語科と外国語活動の連携の試み」『東邦学誌』2014年12月、第43巻、第2号 pp. 77-86、単著
- ・西崎有多子「外国語を用いて「国語」と「外国語活動をつなぐ〜ことばへの気付きと考察へと導く試案〜」2014年3月、『平成25年度国際理解同好会研究集録第17号』、計6ページ分、単著
- ・西崎有多子「外来語を使って「外国語活動」と「国語」を連携させる授業を創る」『東邦学誌』2013年12月、第42巻、第2号 pp. 45-64、単著
- ・西崎有多子「外国語活動における小学校国語教科書の活用と”Hi, friends! 2” Lesson 7の指導」『東邦学誌』2013年6月、第42巻、第1号 pp. 19-28、単著
- ・西崎有多子『『桃太郎』を発展させるオリジナル英語劇の持つ意味』『国際理解教育へのとびら』2013年3月、『平成24年度国際理解同好会研究集録第16号』、計4ページ分、単著
- ・西崎有多子「小学校外国語活動における「桃太郎」を使った授業展開ー英語劇化への過程と民話としての側面ー」『東邦学誌』2012年12月、第41巻第3号人間学部篇 pp. 1-21、単著
- ・西崎有多子「小学校外国語活動におけるオリジナル劇の可能性ー新教材”Hi, friends!”より「桃太郎」を使ってー」『東邦学誌』2012年6月、第41巻、第1号 pp. 75-88、単著
- ・西崎有多子「小学校外国語活動における『言語や文化に対する気付き』の指導」『東邦学誌』2011年6月、第40巻、第1号 pp. 77-86、単著

(学会発表)

- ・西崎有多子「小学校教員養成課程における「小学校英語教育法」のアクティブラーニングを考へる一教材の世界から一歩踏み出し、自分らしく楽しく創造する」小学校英語教育学会、第18回小学校英語教育学会長崎大会(全国大会)、長崎大学、2018年7月29日、単独
- ・西崎有多子「小学校教員養成課程における「小学校英語教育法」への段階的学びを考へる」小学校英語教育学会、第17回小学校英語教育学会兵庫大会(全国大会)、神戸市外国語大学、2017年7月30日、単独
- ・西崎有多子「小学校で英語を教える際に押さえておきたい英文法—小学校教員養成課程の限られた条件の下で—」小学校英語教育学会、第16回小学校英語教育学会宮城大会(全国大会)、宮城教育大学青葉山キャンパス、2016年7月24日、単独
- ・西崎有多子「小学校外国語活動と小学校英語教科化への今とこれから」日本メディア英語学会、中部地区第67回研究例会、愛知大学名古屋キャンパス、2016年7月9日、単独
- ・西崎有多子「国語と英語の連携を意識した授業を考へる—小学校におけることばの教育の相乗効果をめざして—」中部地区英語教育学会、第46回中部地区英語教育学会三重大会、鈴鹿医療科学大学白子キャンパス、2015年6月26日、単独
- ・西崎有多子「商品のネーミングからことばへの気付きに導く指導—小学校における国語、英語、外国語を連携させて—」小学校英語教育学会、第15回小学校英語教育学会広島大会(全国大会)、広島大学東広島キャンパス、2015年7月26日、単独
- ・西崎有多子「江戸時代以降の日本語における翻訳語からことばを考へる—小学校国語・外国語活動(英語)、中国語を関連させて—」第22回九州沖縄支部研究大会、久留米大学福岡サテライトキャンパス、2014年10月26日、単独
- ・西崎有多子「新しいことばの創造と受容を通して日本語と外国語を考へる指導—江戸時代から現代に至る異文化流入とその影響を通して—」第13回小学校英語教育学会神奈川大会(全国大会)、関東学院大学金沢八景キャンパス、2014年7月26日、単独
- ・西崎有多子「外来語を使って「外国語活動」と「国語」を連携させる授業を創る—児童の気付きとことばへの考察を促す教材としての外来語—」第21回日本児童英語教育学会九州沖縄支部研究大会、久留米大学福岡サテライトキャンパス、2013年10月27日、単独
- ・西崎有多子「外国語活動と国語科を連携させる教育の可能性—外国語活動と国語に共通することばの教材としての外来語を使って—」第13回小学校英語教育学会沖縄大会(全国大会)、琉球大学、2013年7月14日、単独
- ・西崎有多子「外国語活動における「桃太郎」を使ったオリジナル英語劇化に関する課題と民話としての「桃太郎」」2012年度愛知東邦大学地域創造研究所共同研究「子どもとことば」中間報告会発表、愛知東邦大学、2013年3月28日、単独
- ・西崎有多子「桃太郎」の英語劇化に伴う課題と民話としての「桃太郎」名古屋市国際理解教育同好会、第4回外国語活動勉強会、名古屋市立牧野小学校、2012年10月25日、単独
- ・西崎有多子「“Hi, friends!”における「桃太郎」を使ったオリジナル劇の指導」日本児童英語教育学会、中部支部研究大会、中部学院大学各務原キャンパス、2012年9月23日、単独
- ・木村友保・西崎有多子・佐藤雄大・服部しのぶ「学習者と教員の成長を目指した英語授業の事例研究—中部支部授業学研究会の事例に基づいて—」大学英語教育学会、第51回国際大会シンポジウム、愛知県立大学、2012年9月1日、共同
- ・西崎有多子「小学校外国語活動におけるオリジナル劇の可能性—新教材”Hi, friends!”より「桃太郎」を使って—」小学校英語教育学会、第12回小学校英語教育学会千葉大会(全国大会)、千

葉大学、2012年7月15日、単独

- ・西崎有多子「小学校外国語活動の現状と諸問題」日本メディア英語学会、中部地区第58回研究例会、愛知淑徳大学星ヶ丘キャンパス、2011年7月16日、単独

(特許)

- ・なし

(その他)

- ・新實広記・西崎有多子・柿原聖治・伊藤龍仁・中島弘道・伊藤数馬・白井克尚・今津孝次郎『「サービス・ラーニング」ハンドブック 第4版』愛知東邦大学教育学部子ども発達学科、2018年3月、共著
- ・新實広記・西崎有多子・柿原聖治・伊藤龍仁・中島弘道・伊藤数馬・白井克尚・今津孝次郎『「サービス・ラーニング」ハンドブック 第3版』愛知東邦大学教育学部子ども発達学科、2017年3月、共著
- ・新實広記・西崎有多子・柿原聖治・伊藤龍仁・中島弘道・伊藤数馬・白井克尚・今津孝次郎『「サービス・ラーニング」ハンドブック 第2版』愛知東邦大学教育学部子ども発達学科、2016年3月、共著
- ・今津孝次郎・新實広記・西崎有多子・柿原聖治・伊藤龍仁・白井克尚「教員と保育士養成における『サービス・ラーニング』の試み」(実践報告)『東邦学誌』2015年6月、第44巻、第1号、pp.211-231、共著
- ・新實広記・西崎有多子・柿原聖治・伊藤龍仁・中島弘道・伊藤数馬・白井克尚・今津孝次郎『「サービス・ラーニング」ハンドブック 第1版』愛知東邦大学教育学部子ども発達学科、2015年3月、共著

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

- ・平成24年度：科学研究費補助金(基盤研究C)申請(代表者)一採択
西崎有多子(研究代表者)基盤研究(C)研究課題番号：24520718 「言語力育成のための小学校国語科と外国語活動を連携させる新しい教育方法の研究」平成24年度～平成27年度、単独

○所属学会

大学英語教育学会、中部地区英語教育学会、小学校英語教育学会、日本児童英語教育学会

○自己評価

概ね達成できたが、多忙のため、出張も含め研究に使える時間が十分確保できなかった。

III 大学運営

○目標・計画

(目標)

教育学部執行部メンバー、幼少課程委員会委員長、初等教育コース主任、小学校教育実習責任者、教務委員等での責任を果たし、関連する仕事に積極的に取り組み、大学運営に貢献する。

(計画)

教員養成において、教育実習、教員採用試験など、日程管理が多く、ミスのないよう、かつきめ細かな指導が求められる。できる限り計画的にこなしていきたい。

○学内委員等

自己点検・評価委員会委員、教務委員会委員、幼小教職委員会委員長、保育士養成課程委員会委員、教職課程再課程認定委員会委員

○自己評価

執行部に関する仕事が予想よりも多く、他の委員の仕事に加えて、小学校教員採用試験のための特別講座の運営にも深く関わった。卒業後に教壇に立つ卒業生が増加している中、教員養成における社会的責任を感じているところであり、今後も努力したい。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

現場での課題解決のための提案・助言等を行う。県内の状況を把握し、必要とされる現職教育に積極的に関わっていく。

(計画)

依頼を受けて、現職教育、指導助言、出前授業等を積極的に行う。

○学会活動等

小学校英語教育学会長崎大会での発表、大学英語教育学会中部支部授業学研究会、小学校英語自主研修会等月例会への参加、所属学会の関連プログラム、研究開発校を含む小学校における研究発表会・研究授業等への参加をした。

○地域連携・社会貢献等

文部科学省 英語教育改善プラン「平成 30 年度外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」における研修会での講演「小学校外国語 ～次期学習指導要領で必要な指導力～」、2018 年 8 月 24 日、犬山市

○自己評価

概ね達成できた。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

- ・2018 年度愛知東邦大学教員免許状更新講習「小学校外国語活動と小学校英語の教科化」
2018 年 8 月 7 日（1～4 限）を講師として単独で担当。

VI 総括

ゼミを含む担当科目については、引き続き学生自らが学ぶ姿勢を持ち積極的に取り組む授業を目標に常に改善を続け、最新情報を取り入れながら、学生が興味深いと感じる内容を提供するための工夫を重ねた。実習において授業で学んだ指導法を実践して高い評価を得た学生、学会や小学校の研究発表会に参加して意欲を高めた学生たちが育ちつつあり、主体的に学ぶ学生の成長が見られたことは喜ばしく、今後も発展的に行っていきたい。

研究活動においては、新学習指導要領を踏まえ、小学校外国語活動の中学年への導入と高学年における小学校英語教科化に実践的に対応できる小学校教員養成ならびに教員研修における有効な指導、提言、社会貢献ができるよう一層努力したい。

以 上